

ボートレース鳴門駐車場ブロック塀改修工事

設計図

図面リスト	
図番	図面名称
A-001	特記仕様書(1)
A-002	特記仕様書(2)
A-003	平面図
A-004	断面図

構造特記仕様書

§1 一般事項

選択項目は◎印を適用し、⊙印が無い場合は＊印を適用する。
○印が複数有る場合は、共に適用する。

1-1使用材料は原則としてJIS規格品、JAS規格品、又は大臣認定品とする。

1-2設計図書の優先順位は下記による。

1)本特記仕様書

2)設計図

3)標準図

◎鉄筋コンクリート構造配筋標準図

●鉄骨工作標準図

●鉄筋鉄骨コンクリート構造標準図

●鉄筋コンクリート壁式標準配筋図

●高強度せん断補強筋施工仕様書

4)仕様書

●公共建築協会

●日本建築家協会

5)日本建築学会標準仕様書、JASS5、JASS6（最新版とする）

1-3各工事に際して、施工計画書及び施工図を提出し、工事監督者の承諾を得る。

1-4構造関係材料及び各種試験成績書・検査報告書を作成し提出する。
第三者機関による検査・試験費用は工事費に（＊含む ●含まない）

1-5設計図書に示されていない材料、工法等を採用する場合は文書にて工事監督者の承諾を得る。

1-6梁貫通位置、径、及び箇所数は(◎意匠図 ●構造図 ⊙設備図)による。

1-7その他

§3 仮設工事、土工事

3-1山留め、根切り

3-2埋戻し土、盛土、残土処分

埋戻し土

＊根切り土の中の良土

●搬入良土

盛土

＊根切り土の中の良土

●搬入良土(盛土は30cm毎に転圧締固めを行うこと)

残土処分

●場内地均し

＊場外搬出処分(＊自由 ●指定場所)

§4 地業工事

4-1基礎及びスラブ下地業（単位mm）

場 所		※(1) 捨てコンクリート厚さ	A：砕石	厚 さ
			B：割栗石	
基礎	独立、布	◎50●60●100	＊A●B	＊60●100◎150●
	ベタ	＊50●60●100	＊A●B	＊60●100●150●
基礎梁		＊50●60●100	＊A●B	＊60●100●150●
土間スラブ		＊50●60●100	＊A●B	＊60●100●150●
土間コンクリート	屋内	＊50●60●100	＊A●B	＊60●100●150●
	屋外	●50●60●100	＊A●B	●60●100●150●

注(1)アンカーボルト支持用フレームの、あと施工アンカーを打込む部分は100以上とする。
(2)端部aは100以上とする。

a

U

§5 鉄筋工事

5-1材種

種 類	径		継 手	
◎SD295	D 以下		＊重ね継手	●スパイラル ●工場溶接
●SD345	D 以上		●重ね継手	＊ガス圧接 ●溶接継手
●SD390	D 以上		＊ガス圧接 ●溶接継手	●機械継手(級)
●SD490	D 以上		＊ガス圧接 ●溶接継手	●機械継手(級)
●溶接金網			●重ね継手	
●高強度せん断補強筋	●1275級	P	●フック加工 ●スパイラル ●工場溶接	
	●785級	K		
	●685級	U		

5-2ガス圧接部の検査(第三者機関による)外観検査全数(引張り試験の場合、施工者自主検査でもよい)

●抜取り検査

●引張り試験(JISZ3120)

1検査ロットにつき ●3本

●原則 柱・梁の径毎に3本

●超音波探傷試験(JISZ3062)

1検査ロットにつき ●30箇所

●熱間押抜き試験

○不合格となった圧接部は切り取って再圧接を行う。また残り全数に対して超音波探傷試験を行う。
1検査ロットは1組の作業班が1日に施工した圧接箇所の数量で200箇所以内

5-3溶接、機械式継手の検査は各々の認定方法による他、日本継手協会仕様書(2017年)及び下記を参照する。
JIS Z 3063(鉄筋コンクリート用異形棒鋼溶接部の超音波探傷試験方法及び判定基準)
JIS Z 3064(鉄筋コンクリート用機械式継手の鉄筋挿入長さの超音波測定試験方法及び判定基準)

5-4梁貫通補強

補強筋は原則として工場製品(評定品)を使用する。

5-5その他

基礎梁、基礎小梁の継手及び定着は原則として

◎①一般 ●②地反力を受ける

●③上載荷重が大きい場合

梁の余長ℓの採用 大梁・小梁 ＊D' (梁有効成) ● 端部上下筋15d 中央上下筋20d
基礎梁 ＊min(D' ,ℓ) ● 端部上下筋15d 中央上下筋20d とする。

鉄筋の組立は適切な位置にスプーサーを使用し、組立後は形状保持のための養生を行う。
コンクリートを2回打する部材は、初回の打設後に鉄筋の清掃を行う。
コンクリート打設前に工事監督者の検査を受け不備な箇所は修正を行う。

§6 コンクリート工事

6-1レディーミクストコンクリート(JIS A5308-2019)

1)セメント

◎普通ポルトランドセメントJISR5210 ●高炉セメント種

●低熱ポルトランドセメントJISR5210 ●

2)粗骨材

◎砂利 ◎砕石 ●高炉スラグ骨材 ●人工軽量骨材 ●再生骨材

最大径(mm) ●20 ●25 ●40

3)設計基準強度(N/mm²u2) (使用区分は設計図の軸組図に示す)

◎普通コンクリート

●Fc18 ●Fc21 ◎Fc24 ●Fc27 ●Fc30 ●Fc ●Fc

●軽量コンクリート(●1種 ●2種 気乾単位容積質量 ●18.5 ●)

●LFC18 ●LFC21 ●LFC24 ●LFC27 ●LFC30 ●LFC

4)土間コンクリート ◎Fc 18 (ただし柱、壁等と同時に打込む場合は躯体の強度とする)

5)捨てコンクリート ◎Fc 18

6)防水押さえコンクリート ●Fc ●LFC (気乾単位容積質量 ●18.5 ●)

7)かさ上げコンクリート ●Fc ●LFC (気乾単位容積質量 ●18.5 ●)

6-2混和材

◎AE減水剤 ◎高性能AE 減水剤 ●躯体防水材料 ●膨張材

注1.混和剤は所定の品質を確保するためにプラントの特性に応じたものを使用する。

6-3

箇 所	基礎、基礎梁	一 般			備 考
スランプ	cm 15	18			
水セメント比	% 60以下	60以下			60以下
単位水量	kg/m ³ u3 185以下	185以下			185以下
単位セメント量	kg/m ³ u3 270以上	270以上			270以上

※注1.スランプは特記なき限り施工者が決め監督者に報告する。

6-4試験(躯体コンクリートの28日圧縮試験は公的機関において行う)

1)骨材 [◎塩分含有量 ◎アルカリシリカ反応性] ◎行う ●行わない

2)フレッシュコンクリート [◎スランプ ◎空気量] ◎行う ●行わない

3)躯体のせき板取り外し時期決定圧縮試験 ◎行う ●行わない

4)コンクリートコア抜き取り圧縮試験 ●行う ◎行わない

5)マスコンクリートのひび割れ照査(温度応力解析) ●行う ◎行わない

6)単位水量測定 ●行う ◎行わない

6-5調査(補正值は工事費に含む)

計画供用期間の級()は耐久設計基準強度F_d

●短期(18) ◎標準(24) ●長期(30) ●超長期(36)

調査管理強度 F_m=Max (F_c, F_d)+S S=3~6

材齢28日の調査強度Fは下記の両式を満足するものとする。
F≥F_m+1.73σ F≥0.85F_m+3σ

6-6せき板及び支柱の在置期間(普通ポルトランドセメントの場合)

	基礎、梁側、柱、壁	スラブ下	梁 下	
コンクリートの材齢による場合	15℃以上	3 日	17 日	28 日
	5℃以上	5 日	25 日	
	0℃以上	8 日	28 日	
圧縮試験による場合	5N/mm ² u2		0.85Fcまたは12N/mm ² u2	設計強度

年 月 日

訂正

備 考:

株式会社歩デザイン一級建築士事務所
一級建築士 大臣登録第164276号 中野和敏
TEL:03-3626-8284 FAX:03-3626-8289

発 行 者:

受 注 者:

工事名称:

設計NO:

図面NO:

実 行 者:

図面名称:

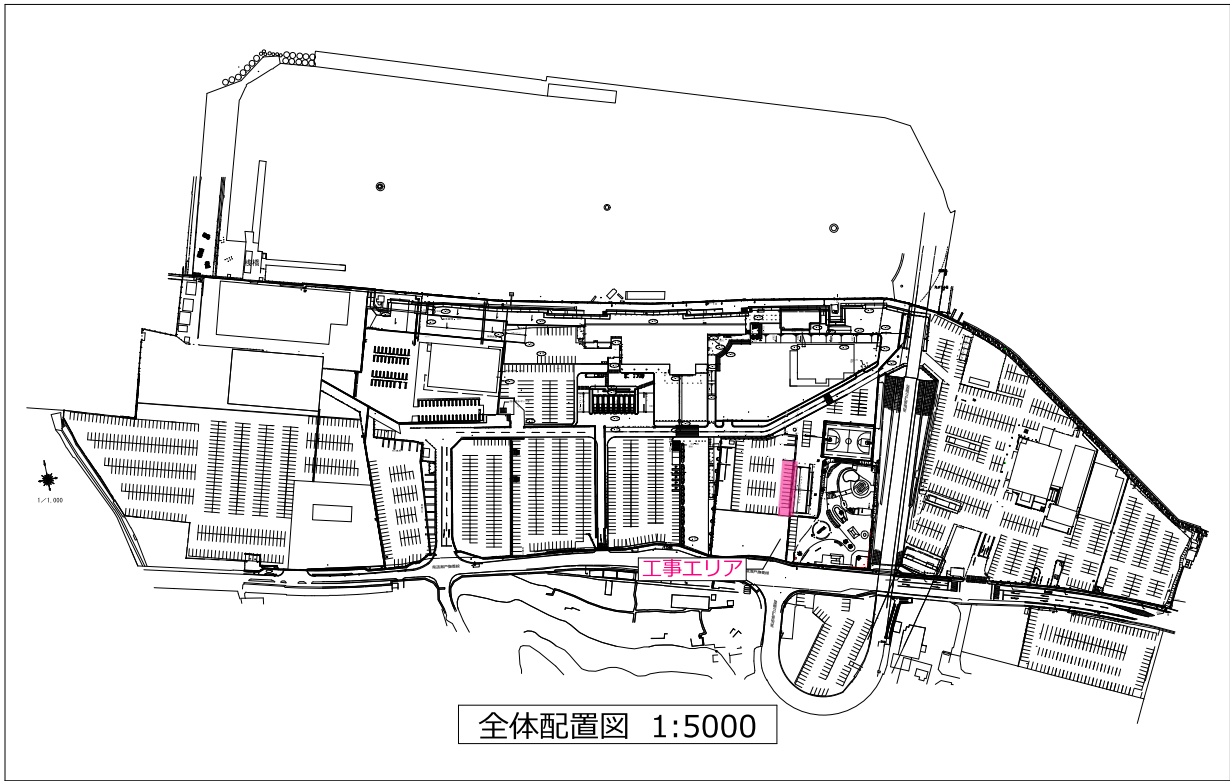
持記仕様書(2)

縮 尺:

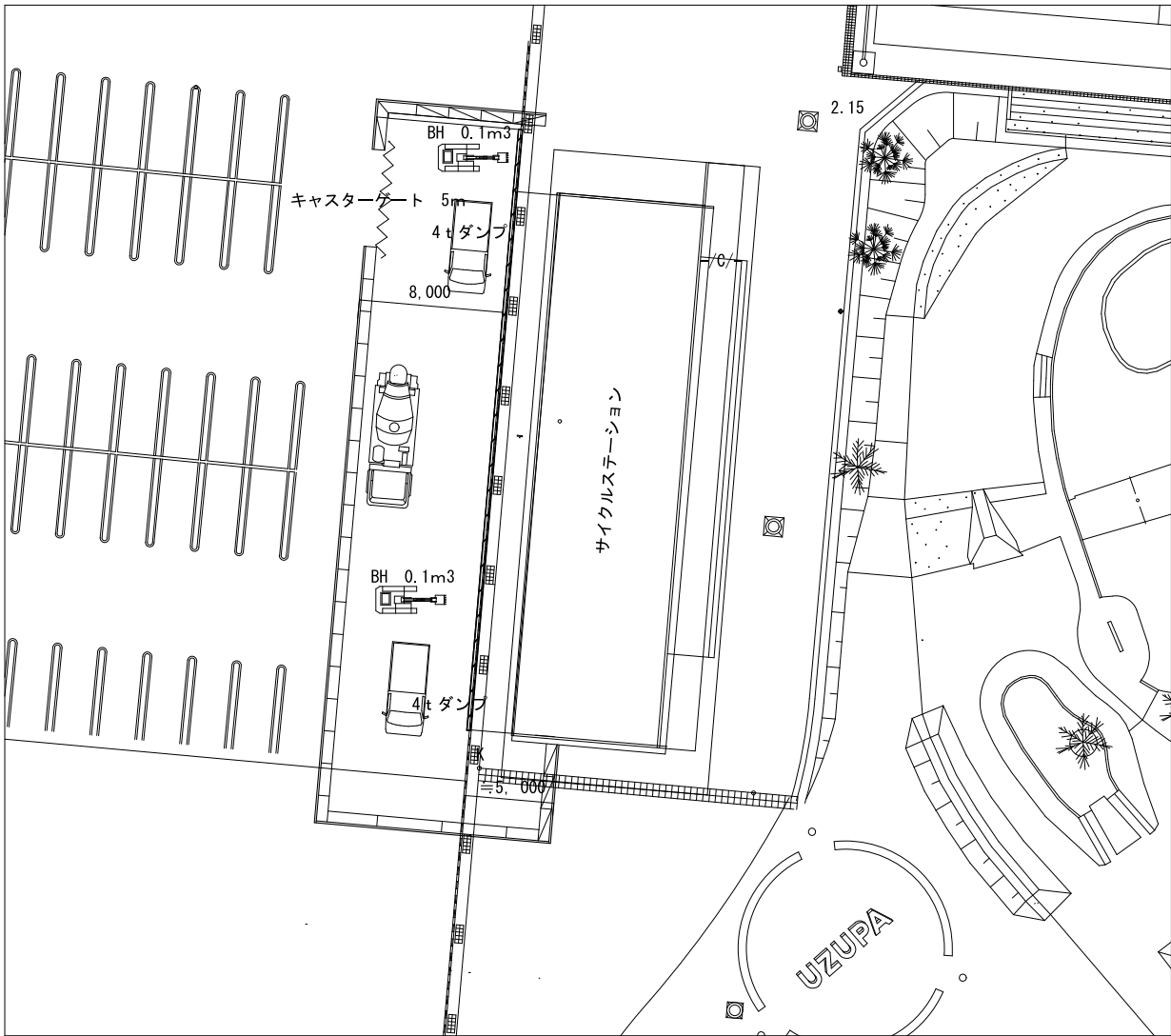
A1: A3/200%
A3: 1:2

製図NO:

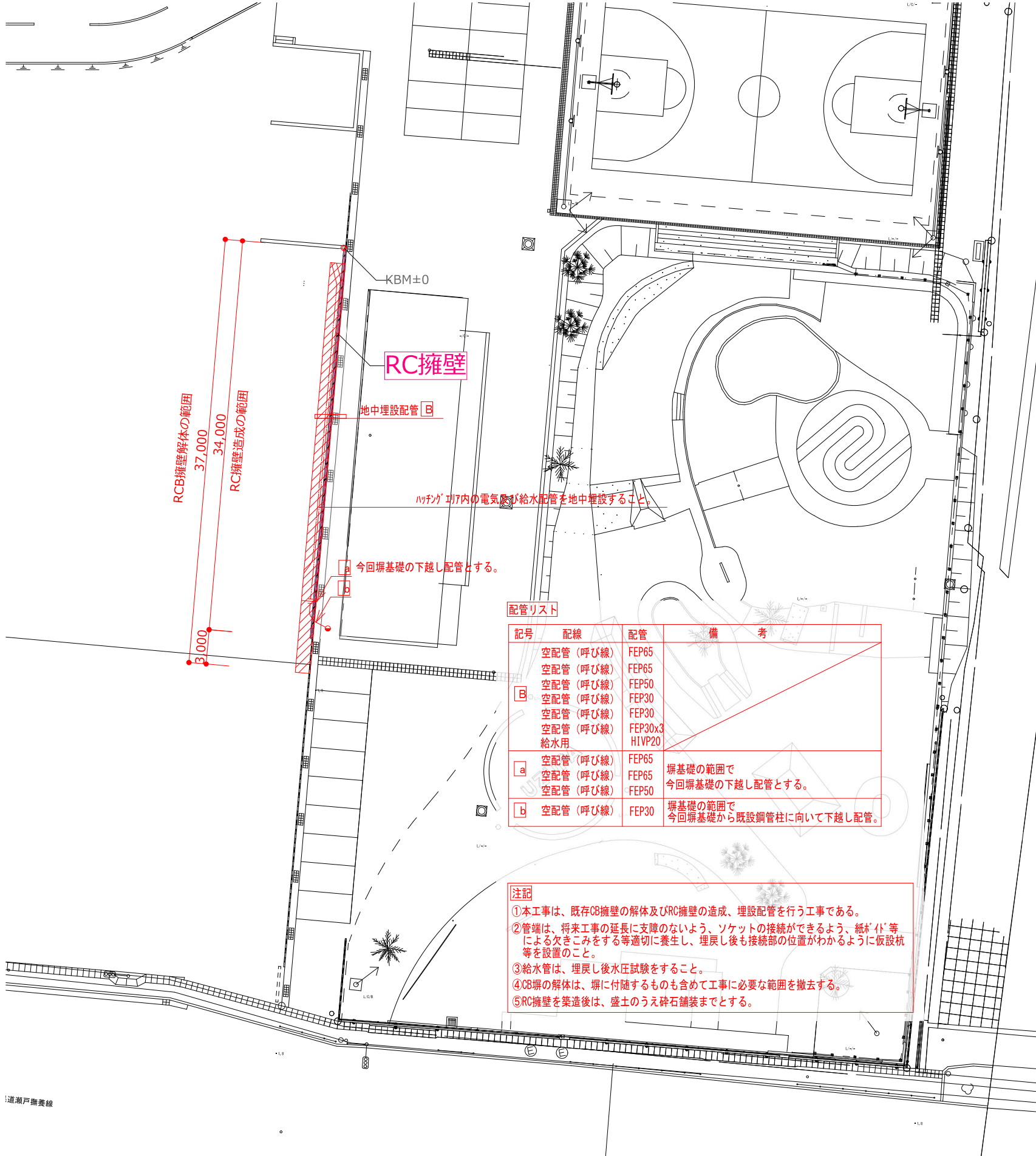
A-002



全体配置図 1:5000

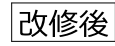
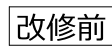


仮設参考図(S=1:400)



配管リスト			
記号	配線	配管	備 考
B	空配管 (呼び線)	FEP65	
	空配管 (呼び線)	FEP65	
	空配管 (呼び線)	FEP50	
	空配管 (呼び線)	FEP30	
	空配管 (呼び線)	FEP30	
	空配管 (呼び線)	FEP30x3	
a	給水用	H1VP20	
	空配管 (呼び線)	FEP65	堀基礎の範囲で 今回堀基礎の下越し配管とする。
	空配管 (呼び線)	FEP65	
	空配管 (呼び線)	FEP50	
b	空配管 (呼び線)	FEP30	堀基礎の範囲で 今回堀基礎から既設鋼管柱に向いて下越し配管。

注記
①本工事は、既存CB擁壁の解体及びRC擁壁の造成、埋設配管を行う工事である。
②管端は、将来工事の延長に支障のないよう、ソケットの接続ができるよう、紙パイプ等による欠きこみをする等適切に養生し、埋戻し後も接続部の位置がわかるように仮設杭等を設置のこと。
③給水管は、埋戻し後水圧試験をすること。
④CB堀の解体は、堀に付随するものも含めて工事に必要な範囲を撤去する。
⑤RC擁壁を築造後は、盛土のうえ砕石舗装までとする。

[illegible]